

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2254 号

Review of early endoscopic findings in patients with local recurrence after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma

食道扁平上皮癌に対する根治的 CRT 後の局所再発患者の早期内視鏡所見の検討

山本 陽一 (やまもと よういち)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、食道扁平上皮癌に対する根治的放射線化学療法後の局所再発の内視鏡所見について、粘膜下腫瘍とびらんがより早期の局所再発所見であることを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。根治的放射線化学療法後の局所再発について早期に診断が行われた場合、サルベージ内視鏡治療により臓器温存したまま治癒できる可能性がある。以前の報告では潰瘍や粘膜下腫瘍、びらんが局所再発所見であることは示されていたが、より早期の局所再発における内視鏡所見については言及されておらず、本論文ではそれを明らかにすることを目的とした。本論文での検討の結果、以前より言及されていた所見の中で粘膜下腫瘍やびらんは、10 mm 未満であっても局所再発に至る可能性のある重要な所見であることに注意する必要があることが明らかになった。また根治的放射線化学療法後完全奏功となった場合の経過観察内視鏡検査は、局所再発を示唆する所見を内視鏡検査で認めた場合、次回の内視鏡検査を 1~2 か月の短い間隔で施行する必要があることも改めて明らかになった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。